

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/07/27 ～2022/09/1)

1. 勉学の状況

8月8日から授業が始まりました。Software and Knowledge Engineering Programには、私以外に交換留学生はおらず、正規留学生でミャンマー出身の方が1人いるだけで、あとは皆タイの方です。私の専攻ではない学部の授業なので、難易度などを考慮して1年生向けの科目を受講しています。授業はすべて英語で実施されますが、たまにタイ語で説明を加えているようです。以前からタイドラマを観ていたので10～20%は理解できますが、ほとんど何を言っているかはわかりません。ただ、教授の英語は聞き取りやすいので問題はありません。とりあえず生のタイ語がたくさん聞けて嬉しいです。交換留学生の履修登録の方法は他の学生とは異なるので、最初はコースシステムに登録されておらず、まわりの学生に教えてもらいながらGoogle Classroomや大学の学生情報ページの登録を終えました。留学生の履修については教員にはあまり情報が伝わっていないらしく、自分でいくつかのオフィスに問い合わせながら履修登録を進めました。私の所属しているプログラムでは、授業開始日以前にプログラミングの基礎を学ぶキャンプがあったらしく、ほぼ全員が参加していたようで、ただでさえ自分の専攻ではないのにさらに後れを取ることになってしまいました。(そのキャンプの実施については事前に知らされていませんでした。)さらに、いくつかの科目は交換留学生向けではないとのことで、履修できるか危ういところでしたが、担当教員と話し合い、受講許可をいただきました。授業によっては、かなり時間のかかる課題が出るので、以前よりも時間の使い方を工夫しながら生活しています。学びたかったことを学べているので、長時間の勉強も精神的にはそこまで苦ではないのですが、座りっぱなしで作業していると体が痛くなるのは少し辛いところです。

学生との関係も良好だと思います。キャンパス内の建物の場所が分からないときに案内してくれたり、学生情報の登録方法や施設の使い方を教えてくれたり、学食の注文を手伝ったりしてくれています。同じプログラムの学生は、授業中や自習中も、分からないところを尋ねたら丁寧に説明してくれて、本当に助かっています。1つ残念なことといえば、並行して千葉大学の授業をいくつか受講しなければならないために、学科の授業をいくつかキャンセルしたので、彼らと過ごす時間が減ってしまったことです。その分、他の学部学科の留学生との交流の機会を増やしたいと思います。



工学部（工学部棟が多すぎて道に迷いました）



(建物によく鳥が入ってきます)

2. 生活の状況

寮に到着した後もトラブル続きでしたが、なんとかタイでの生活にも慣れてきました。シャワーヒーターが故障したり、寮が予告なく停電して急に復旧したせいで充電していたパソコンが不具合を起こしたり、パソコンの充電には変圧器が不要にもかかわらず変圧器を介して充電していたせいで上手く充電できなかつたり、寮到着日が祝日でその後も連休だったせいでオフィスが閉鎖されていて Wi-Fi 接続手続きができず、千葉大の課題提出が遅れたり、なかなか散々な目に遭いましたが結果的には「マイペンライ（大丈夫）」です。警備員や清掃員はほとんど英語が通じないのですが、いくつか知っているタイ語のフレーズを拾って聞き取ったりジェスチャーを使ったりしながらなんとかコミュニケーションをとっています。オフィスの職員の方とは英語で問題なく会話できています。

気候に関しては、やはり蒸し暑いとは思いますが、日本の方が暑いと感じる日もありません。タイは4月頃が最も暑い時期らしく、今は暑さのピークではないからかもしれません。もともとタイ料理が好きなので、食事も口に合うものばかりです。日本のメーカーの商品も結構な頻度で目にするので安心感もあります。ただ、料理に入っている野菜が少なく、意識的に摂取しないと野菜不足になりがちです。なかなかお腹を壊すことがなかったのですが、ご飯を買った際の無料トッピングのキュウリのせいで食あたりしました。今思えば切ったまま常温で放置されている時点で疑うべきでしたが、野菜をなるべく多く食べたい気持ちが勝ってしまいました。



学食（1食 120～200円程度）



学食のクレープ（100円程度）

8月中旬には、ルームメイトが到着しました。彼女はドイツ出身で、ドイツとタイのダブルです。彼女の専攻は経営学ですが、タイ語も勉強中だそうで、バンコクに住んでいるお姉さんとは、簡単なタイ語で会話しているようです。彼女の方が格段に英語ができるので、私のつたない英語でたまに困らせてしまいますが、大きな問題なくコミュニケーションは取れています。彼女も私も共通のタイドラマが好きで、出演俳優の話で盛り上がっています。2人とも誕生日が9月なので、来週一緒にお祝いする予定です。

ルームメイトが制服を買いに大学を案内してほしいというので、一緒に大学生協まで行きました。そこで、少しモヤモヤすることがあったので書き留めておこうと思います。その大学生協には、彼女が来るよりも前に、1人で制服を買いに行ったことがありました。その時、シャツやスカートが無造作に陳列されており、どのように買い揃えればよいのかわからなかったのが、店員に尋ねました。すると、なんだがとても嫌そうな素振りで売り場の方を指さすだけで、あとは何も答えてくれませんでした。会計の際も、その店員は、他のタイの学生とは談笑しながらレジ打ちしているのに、私の時には終始顔をしかめていたのであまり良い気分にはなりません。しかし、ルームメイトに同伴した日には、同じ店員でも、彼女に対しては終始にこやかに対応していて、複雑な気持ちになりました。なんとなく私がアジア人だからだろうかなどと憶測してしまいました。外国で差別を受けたのは初めてではありませんが、対応の違いという間接的な差別(?)は、直接暴言を吐かれるのとはまた違った不快感がありました。とはいえ、日本でも特定の外国人に対して嫌な態度を取る人はいると思います。日本で千葉大学の留学生と家電量販店に行き、携帯電話の契約について尋ねた際に、彼女が外国(アジア)人だと知った途端に高圧的な態度を取り始めた店員がいたことを思い出しました。

まあ、人に関してモヤモヤすることといえば、あとはたまにぼったくられそうになるくらいで、基本的には親切な人が多いです。こちらは片言のタイ語と、彼らにとって第一言語ではない英語で話しかけているのに、ちゃんと対応してくれるのはありがたいことだと思います。むしろ、タイに来てからとにかく人に恵まれています。タイは車社会なので、大通りには横断歩道があまりなく、代わりに歩道橋が設置されています。到着日には、大きなスーツケースを持っていたので、1人では渡れそうにありませんでした。通りかかった人に他の道を尋ねたのですが、他の道はないとのことで途方に暮れていると、一緒に荷物を運んで歩道橋を渡ってくれると言ってくれ、おかげでどうにか行き先までたどり着くことができました。先に述べたパソコンの不具合が起きた日には、寮にいた何人かの学生に相談して、近くに小さなパソコン修理店(?)に案内してもらい、お店の方が無償で対処法を教えてくださいました。渋滞のせいでキャンパスから寮に戻る際のバスがなかなか来ず、諦めて車通りの多い歩道のない道を歩いていた時には、通りがかった女性がバイクの後ろに乗せて寮まで連れて行ってくれました。まだ滞在して1か月ほどしか経っていませんが、他にも、ここには書ききれないほどたくさんの人に助けられています。そんな調子で、案外タイでの生活に適應できているような気がします。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/09/02 ～2022/11/05)

1. 勉学の状況

最終的に履修登録したのは、私の所属している Software and Knowledge Program (以下 SKE) の学生向けの「Computer Programming 1」、「Computer Programming Laboratory 1」、「Discrete Mathematics and Linear Algebra」、そして全学部開放の「Computer and Programming」の4つです。それぞれ3時間、3時間、4時間、5時間と、授業時間が日本に比べて長いです。さらに、10月からは千葉大学の授業「クロスメジャープロジェクトII」とオンデマンド授業をいくつか並行して受講しており、予習や課題も増えてかなり忙しいです。講義のみで4時間ある授業では、平均して10分程度の休憩が2回あります。プログラミングの授業は、講義だけでなく各自で作業する時間もあるので、休憩は各自で取るということになっているようですが、あまり休憩している暇はありません。周りのSKEの学生は、プログラミング経験があったり、授業で扱う範囲を既に学んでいたりする方が多いので、ついていくのが大変です。

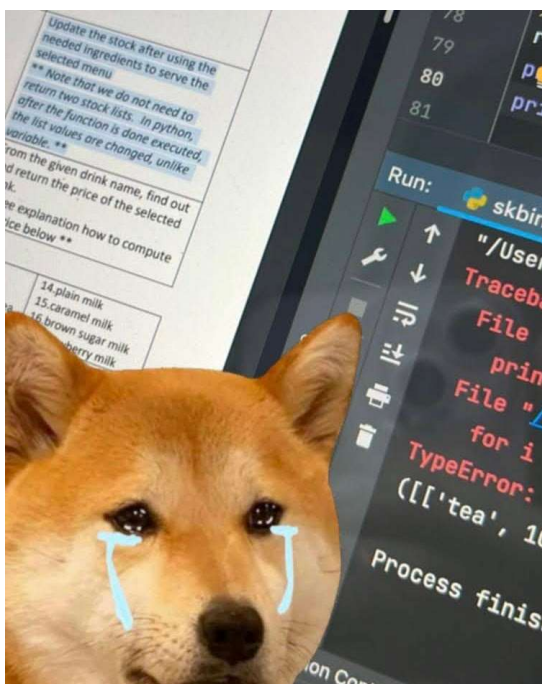
SKE 向けのプログラミングの授業（難易度の高い方）では、数日間かけて課題をやることもよくあります。カフェの注文やホテルの予約を想定したプログラムを書く課題は、とても時間がかかりましたが、現実味のある題材で面白かったです。どうしても難しい時は周りの学生にヒントをもらうなどして、できるところまではトライしてから提出するようにしています。定期試験の他に、授業内で小テストをやることがあります。初回はあまり満足のいく結果を残せなかったのですが、TAの方が「初心者にしては上出来」と褒めてくれました。2回目の小テストでは、満点を取ることができました。

全学部向けのプログラミングの授業（難易度の低い方）は、SKE 向けのものよりは易しめですが、SKE 向けの授業で習ったことを復習したり、他の学生に教えたりすることで、さらに学ぶことができる機会になっています。今のところ、全受講者の中でトップの成績を取れています。

離散数学と線形代数学の授業では、他の学生は高校で学んでいたようでしたが、私が高校では習わなかった範囲をよく理解できなくて困ったこともありました。私は日本の教育課程で高校数学Ⅲまで履修していたにもかかわらず、そのようなことがあったので、国や学校によってカリキュラムが多少異なるようです。一方で、私は既に高校で学んだ内容を、他の学生は初めて学ぶようで、苦戦している場面もありました。そもそも内容がどうであれ、集中力を切らさずに4時間の講義を受けることに必死です。教科書はPDF版が公開されているので買う必要はなかったのですが、1000ページあって驚きました。4時間の講義を受けた後は、4時間分の復習をしなければならないので、思ったより大変です。

9月末には、中間試験がありました。もちろん勉強はしていましたが、SKE 向けのプログラミングの試験が思いのほか難しく、単位取得できるか心配になってきました。他の科目は、まあまあ感触がよかったです。

中間試験の数週間後に結果が返却されると、あまり感触の良くなかった科目も、全体では中の上くらいの成績は取れていたことがわかり、少し安心できました。教員とも結果について話し合い、ほとんど知識がない状態で始めたのに上出来だと褒めてくださいました（初回授業の抜き打ちプレテストではひどい点数を取っていたので……）。



←毎週の課題に対する友達の反応
(インスタグラムのストーリーより)

週末が丸つぶれになることもあるので
そりゃ泣きたくもなります。

2. 生活の状況

タイでは大学生も制服を着るのですが、ちょっと特殊な制服のボタン事情について書いておこうと思います。主に女性向けの制服は、半袖の白ワイシャツと黒いスカートです。パツパツのタイトミニスカートを履いている学生もたまに見かけますが、さすがに躊躇われたので、私はごく普通の膝丈のプリーツスカートを選びました。宗教上の理由から、マキシ丈のスカートを履いている学生もいます。女性は、ネクタイやリボンの代わりに、校章入りのボタンをワイシャツに付けます。ただ、ワイシャツに付いているものよりも直径が大きいため、穴を拡張しなければなりません。もともと付いているボタンも取り外さなければならぬので、寮のオフィスに相談してカッターを借り、どうにか校章ボタンに付け替えました。取り付けるのに針と糸は必要なく、ボタンの裏の穴にリングを通すだけです(文字では分かりにくいと思います)。初めはやり方が全く分からず、日本語で検索しても分かりやすいページが見つからなかったため、それぞれタイ語で「大学 制服 ボタン」のように検索し、たどり着いた動画を参考にしました。

9月の初めに、留学生向けのアイスブレイキングイベントに参加しました。そこで出会ったPh.D.の方に、タイでの生活のコツを教えてもらいました。

1. 英語で話しかける時も初めと終わりの挨拶はタイ語で
2. よく使う単語は最低限覚える(無理に文にしようとしなくても良い)
3. ジェスチャーを使う

これらを意識し始めてから、屋台などを比較的快適に利用できるようになりました。片言でもタイ語で伝えようとする姿勢を見せた方が、店員さんも親切に対応してくれる気がします。コンビニで食品を買うのも楽で良いですが、ローカルなお店の方が、安くて新鮮なものが手に入るので、うまく活用するべきだと思います。例えば、フルーツは、より美味しいものをコンビニの半額の値段で買うことができました(衛生面を気にすると何とも言えませんが、私はそこまで気にしていません)。メニューがタイ語で読めないときは、Google フォトのテキストスキャニング機能を使ってテキストを抽出し、それをさらに検索して発音を確認してから注文するようにしています。それでも限界があるときは、メニューを写真で取ってタイ語で「これください」と言えば何とかできます。

留学などのためにタイに来ている国際教養学部の同級生や、千葉大学に留学に来ていた

タイの学生たちにも再会しました。タイ人学生の親戚が経営しているレストランで食事をしたのですが、タイに来て食べた中で 1 番美味しい料理でした。また、タイ人学生の運転でアユタヤなどの観光地に連れて行ってもらいました。タイに着いた当初は、知り合いが 1 人もいない中で、自分から周りの人に声をかけていかなければならず、不安ながらもそれはそれで楽しんでいたのですが、やはり異国の地に知り合いがいるというのは安心感が違いますね。



←千葉大に留学に来ていたタイ人学生の親戚が経営しているレストランでの食事

複数人で出かけたなら、大皿料理をみんなで取り分けて食べることも多いです。

アユタヤの遺跡→

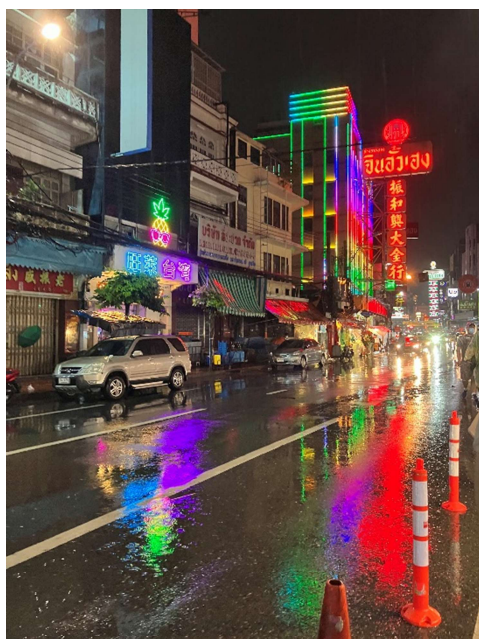
日本人学生とタイ人学生で行きました。



同じプログラムのタイ学生たちと、放課後に外食する機会もあり、タイ式のしゃぶしゃぶを食べに行きました（タイでは「しゃぶう」と呼ばれています。なんかかわいいですね）。1500 円程度で、お肉や野菜、他のお惣菜やデザートが（たしか）90 分食べ放題です。日本のしゃぶしゃぶと違って、各自がお肉を 1 枚ずつ鍋に入れて茹げるのを待つのではなく、運ばれてきた具材は構わず一気に鍋に入れます（お肉が茹がりすぎて固くなるとかそんなことは気にしません）。お寿司（のようなもの）も食べました。値段の割にどれも美味しくて、お腹いっぱい食べられるので満足です。タイには食べ放題スタイルのレストランが人気なようで、商業施設の中に何軒も入っています。

ようやくタイの銀行口座を作りました。大学構内の支店には、英語を話せるスタッフがいなくて困っていたのですが、たまたまそこに日本語を少し話せる女性がおおり、手続きを手伝ってくれました。話を聞くと、日本のとある国立大学の大学院博士課程を卒業して、今は政府職員をしているそうです。なぜ口座を開設したかという、タイでは、口座直結の QR コード決済が普及しており、現金を持ち歩くことなく買い物ができるようになるからです。小さな屋台から巨大ショッピングモールまで、あらゆるお店で使えます。通販や寮の家賃の支払いも銀行アプリで完結する上に、グループで飲食店に行った際には、口座をアプリに登録している人同士であれば会計後に簡単に割り勘ができてとても便利です。

10月後半からは、雨季も終わりに差し掛かり、夕方のスコールもなくなりました。しかし、9月から10月前半までは、しょっちゅう天気が崩れて大雨になり、頻繁に洪水が起きていました。あまりにもひどいときは、授業がオンラインに切り替わるほどでした。道が川のように、バスがボートのような感じでした（一部地域では、本当に洪水時の移動・避難用ボートを所有している家もあります）。靴どころか膝まで水が浸かるのが週に何度もあると、はじめのうちは気分が落ち込みましたが、だんだんびしょ濡れになることにも慣れてしまいました。



←雨に濡れた中華街

洪水にはうんざりしますが
雨も悪くはないですね。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/11/06 ～2023/1/7)

1. 勉学の状況

セメスターの終わりが近づくにつれて授業の難易度も上がりました。講義を聴くだけでは理解が追い付かなかったので、ほかの学生に質問して教えてもらうなどして勉強を進めました。プログラミングの授業は、期末試験に加えて、最終プロジェクトの提出も課されていたので、作業時間の配分を工夫しながら試験対策とプロジェクト作成を並行して行いました。同じ場所で勉強していると飽きてくるので、自室だけでなく寮の自習室や大学の図書館、キャンパス内の屋外共用スペース、カフェなどを活用して気分転換していました。

最終試験では、受講していた4つの科目のうち、2つの科目で授業内1位の成績を取ることができました。初回授業では基礎知識も不十分で、小テストでひどい点数を取ったことを振り返ると、5か月間それなりに頑張ったのではないかと思います。サポートしてくれた教員やTA、同級生たちへの感謝を忘れず、今後も勉強を続けようと思います。

2. 生活の状況

11月8日には、ロイクラトンがありました。灯籠を川に流す、仏教のお祭りです。カセサー大学でもお祭りはやっていたので、同じ学部の学生と一緒に行きました。



ルームメイトが11月いっぱいまで退寮してしまいました。バンコクに住んでいるお姉さんの家に生活の拠点を移すとのことです。それ以降も交流は続いており、クリスマスイブには、私たちの推しである2人組のタイの俳優兼アーティストたちのコンサートに行きました。



期末試験の1週間前に風邪をこじらせてしまいました。最終課題の提出も迫っている中、身体が言うことを聞かず、辛い日々を過ごしました。具沢山のトムヤムを食べて汗をかいて、早めに寝ることを心がけたら治りました。



セメスター終了後は、改めてバンコクを観光しました。主要なお寺やマーケット、ショッピングモールを巡ってお土産を買いました。その後、年末から北部のチェンマイに旅行して、そこで新年を迎えました。チェンマイは山に囲まれており、比較的涼しい地方です。お寺やカフェ、マーケットを巡りながらお散歩したり、隣の県のチェンライの観光ツアーに参加したり、タイ料理教室に行ったりしてのんびり過ごしました。帰国したら就活や卒業研究の準備が本格化するので、最後の余暇だと思って全力で楽しみました。

